

マスコミ各位

令和5年9月29日（金）

沖縄県保健医療部ワクチン・検査推進課 感染症予防班

担当：加藤、嘉数

電話：098-866-2013

咽頭結膜熱患者の流行状況について

～警報発令～

1 概要

現在、本県では咽頭結膜熱患者が増加しています。

感染症発生動向調査による咽頭結膜熱の患者報告数は、令和5年第38週（9月18～24日）に、定点当たり3.61人（定点医療機関31カ所、報告数112人）となり、警報発令基準値の3.00人を超えましたので、警報を発令します。沖縄県での警報発令は平成11年（1999年）に「感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）」が施行されて以降、初めてとなります。

2 咽頭結膜熱とは 5類感染症 [定点把握]

咽頭結膜熱はプールを介して流行することが多いので「プール熱」と呼ばれることがあります。

病原体：アデノウイルス

感染経路：咳、くしゃみによる飛沫感染、手指、タオル共用等による接触感染があります。

潜伏期間：5～7日間

症状：発熱、咽頭痛、結膜炎が主な症状になります。

予防：ワクチンはありません。手洗い、うがい、咳エチケットといった基本的な感染対策が大切です。感染者との密接な接触を避けるためタオル等は別に使用して下さい。

治療法：対症療法になります。

3 咽頭結膜熱の患者発生状況

咽頭結膜熱の患者情報は、感染症発生動向調査事業において県内の小児科31定点医療機関の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、全国約3,000カ所の定点情報と併せて分析し、県民及び医療機関に情報を提供しています。

令和5年の直近の7週間（第32～38週）の患者数は426人で、年齢別では1歳が109人（25.6%）で最も多く、次いで3歳78人（18.3%）、2歳68人（16.0%）、4歳45人（10.6%）、6ヶ月以上12ヶ月未満43人（10.1%）の順となっております。

ここ数週間は増加傾向にあり、第 38 週の保健所別定点当たり患者報告数は、南部保健所が 7.50 人で最も多く、次いで北部保健所 2.67 人、中部保健所 2.67 人、那覇市保健所 2.29 人、宮古保健所 1.50 人、八重山保健所 0.50 人の順となっています。

定点当たりの患者報告数（直近の 7 週間）

	週	32 週 8/7 ～8/13	33 週 8/14 ～8/20	34 週 8/21 ～8/27	35 週 8/28 ～9/3	36 週 9/4 ～9/10	37 週 9/11 ～9/17	38 週 9/18 ～9/24	計
県	患者数	28	33	33	57	82	81	112	426
	定点当	0.90	1.06	1.06	1.84	2.65	2.61	3.61	—
全 国	患者数	1,681	1,952	2,128	3,058	3,964	4,539	4,126	21,448
	定点当	0.56	0.63	0.68	0.97	1.26	1.45	1.31	—

※感染症発生動向調査システム上の警報の発令基準値 流行警報：定点当たり 3 人以上

4 参考

- 沖縄県感染症情報センター「感染症発生動向調査 週報・月報 ～速報～」
 < 定点把握 18 疾患のグラフ・データ > に、咽頭結膜熱の情報を掲載しています。
<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html#syugepou>
- 厚生労働省「咽頭結膜熱について」
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou17/01.html>
- 国立感染症研究所「咽頭結膜熱とは」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/adenopfc.html>
- こども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン（2018 年改訂版）（2023(令和 5)年 5 月一部改訂）」
https://www.zenshihoren.or.jp/uploads/topics_download/20230509093415.pdf
- 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会「学校、幼稚園、認定こども園、保育所において予防すべき感染症の解説（2023 年 5 月改訂版）」
https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/yobo_kansensho_20230531.pdf